



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年11月8日

我孫子市小中一貫教育だより

第348号



我孫子市マスコットキャラクター  
「手洗浴のうなぎちゃん」

### 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

## Abi-小中一貫教育 共有授業実践の様子を紹介するうな～！

### Abi-キャリア「わたしたちの生活と食糧生産」

我孫子第四小学校の5年生社会科「わたしたちの生活と食糧生産」の単元で Abi-キャリアの授業が行われました。前時に我孫子市の米農家の方にお越しいただき、インタビューしたことを基に、資料から日本全体の米生産や消費について考えることをねらいとしています。

農家の方からの「365日休みなく働いている」「苗づくりには1カ月もかかる」「お米をたくさん食べてほしい」という願いを持っているという話を振り返り、その後、本時の内容である2つの資料を読み取りました。

一つは、「米の生産量と消費量の推移」、もう一つは「農業従事者数の推移」です。グラフから大きな変化や特徴だけでなく、年数ごとの変化や割合にも注目し授業が進んでいきました。



「米の生産量と消費量が減少している理由に、食生活の変化と農家の減少」が関わっていることに気付くと、「このままでよいのかな」「もっと米って美味しいんだ。農業って面白いんだ。ということをやアピールしてはどうか」と、社会の課題を身近に感じ、自分事として捉える様子が見られました。学びのなかから次の課題を見出し、自ら考える姿が素敵な授業でした。どのようにお米のよさをアピールするのか、単元のまとめが楽しみになりました。

### Abi-キャリア「認知症サポーター養成講座を受けよう」

我孫子北地区高齢者なんでも相談室の方による「認知症サポーター養成講座」を、並木小6年生が受講しました。前の時間に高齢者疑似体験を行い、高齢者の大変さを知った上での受講でした。

まず認知症について学び、具体的な対応を確認しました。次に寸劇で、何度も同じことを聞かれた時の対応を考えました。「何度も何度も聞かないでよ！」と怒る様子に「言い方が強い。」「冷たい。」「かわいそう。」などの声が上がりました。「どう接したいですか？」と聞かれると、「相手の立場になってイライラしない。」「何回も答える。」「大人に相談する。」などの意見が出ました。認知症役の方は「優しくしてもらおうとありがたい。穏やかになる。」とおっしゃっていました。



最後に、様々な場面から認知症の方の気持ちを想像しました。家に帰る道や家族・友達の顔が分からなくなったらと考えると、心細く怖い気持ちが理解できました。また、笑顔や安心した気持ちで過ごす症状の悪化を防いだり、進行を遅らせたりすることも教えてもらいました。接するときのポイントは「①驚かせない②急がせない③心を傷つけない」だそうです。

講座を受けた「修了証」を手渡された子ども達は、今日から温かい目で見守る「認知症サポーター」として、優しい心で高齢者、認知症の方と接していってほしいと思います。